

鳥飼まちづくりグランドデザイン住民説明会 議事録

日時：令和6年1月18日（木）

18：30～20：30

場所：摂津市役所 7階講堂

【出席者】

■住民：18名（うち、オンライン参加者6名）

■運営関係者：

所 属		役 職	氏 名
摂津市	市長公室	公室長	平井 貴志
	〃	副理事	森川 護
	〃 政策推進課	参事	寺田 荘史
	〃 政策推進課	副参事	衣川 智久
	〃 政策推進課	主査	関本 敏晴
	〃 政策推進課	副主査	近重 佑太朗
	総務部	理事	丹羽 和人
	生活環境部	副理事	川本 勝也
	〃 産業振興課	課長	鈴木 誠
	建設部	副理事	寺田 満夫
	〃 水みどり課	課長	宮城 陽一

【議事次第】

1. 開会
2. 出席者紹介
3. 資料説明
4. 質疑応答
5. 閉会

【配布資料】

- ・鳥飼まちづくりグランドデザイン説明会 人とものが集まる賑わい（核）エリア 1回目
～エリアの将来予想・取組の方向性の共有～

【質疑応答議事録】※質疑応答の区切りを、奇数回・偶数回で色分け。

● 質疑応答

1	住民	<ul style="list-style-type: none"> ・マスタープランとなるこの計画については、いつ頃策定されたものか。また、予算規模が書かれていないが、どこかに記載されているのか。そのあたりを教えてください。
	市	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥飼まちづくりグランドデザインは、令和4年7月に策定した。予算については、まだ議論に至っていない。現在説明会等を通じて、住民の皆様からのご意見をいただきながら、今後具体的な形にしていくよう取り組みを進めている段階であるため予算的なことは記載していない。
	住民	<ul style="list-style-type: none"> ・予算が書かれていないということであれば、何を作りたいのか。摂津市の財政規模から考えて、想定される予算や、国や大阪府、また関係団体等から補助を受けられるのか、そのあたりの規模感がないのに、今のような説明をされてもわかりにくいので、そのあたりもう少し検討してもらいたい。 ・大阪北部地震後、大阪モノレールは止まっていたが、災害時の運行状況はどうなっているのか。 ・人口推移で鳥飼地域の人口が半分になっていくという説明があったが、摂津市全域の中でどの地域で増減がみられていくのか。
	市	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪モノレールの運行については昨年度の台風接近時には強風の影響を考慮し前日から運行を取りやめていた。公共交通機関の運行情報はテレビによるデータ放送や大阪府からも防災情報として随時流している。災害時においては、交通機関各社ともに早めの計画運行を実施しているため、こまめな情報収集のうえご対応いただきたい。
	市	<ul style="list-style-type: none"> ・人口推移の件については、今回の説明会資料には記載していないが、本市の町丁字別人口推計データによると、今回の説明会対象地域の人口推計は、資料の左の2017（平成29）年の3,632人に対し、2023（令和5）年には3,467人となり、165名減少している。率で言うと95.5%になる。2017（平成29）年時点において鳥飼地域全体で26,681人となっているものが、2057（令和39）年には14,848人になると推計されているので、2017（平成29）年と比較し、1万人程人口が減少する推計となる。2022（令和4）年については実績値が出ているが、推計値で言うと元々25,784人の推計が実績として25,484人になるため、300人程実績の方が早く減少している結果となっている。
	住民	<ul style="list-style-type: none"> ・エリアごとのまちづくりとして、住民から広く意見を求めていくのであれば、地域ごとの人口推計を見せてもらった方が分かりやすいと思う。 ・まちづくりをしていくなかで、住居地域や準工業地域等、用途地域を変更していくことになるのか。建ぺい率や容積率についてはどうなるのか。
	市	<ul style="list-style-type: none"> ・土地利用は、都市計画に関連してくる。今回のエリアでは、新在家2丁目及び南摂津駅前を含む東一津屋は準工業地域である。平成9年の駅開業にあわせ、駅前の土地区画整理事業を実施した区域はベースの準工業地域に特別業務地区という近隣商業地域並みの指定。また鳥飼地域全般では、府道大阪高槻線の北側エリアなど主に土地区画整理事業による区域は準工業地域で、大規模工

		<p>場(カネカ)周辺は工業地域の指定。その他、淀川堤防沿いの旧集落や住宅市街地は主に住居系用途地域の指定。銘木団地や鳥飼五久地区は、近隣商業地域の指定。鳥飼地域は主に建ぺい率 60%、容積率 200%の指定だが、南摂津駅前の区画整理事業区域は容積率 300%の位置付けである。</p>
2	住民	<ul style="list-style-type: none"> 先ほどされた質問は、現状の地目の状況を聞いたわけではなく、鳥飼まちづくりグランドデザインを進めるにあたって、現状の地目に対してどういった取り組みを進めて人口減少にどう対応していくか、ということだと認識した。 何度も説明会に参加しているが、まちづくりの将来像として常に共通して必ずあるのは、地域コミュニティの醸成である。摂津市における自治会の組織率は平均で 43%程度だが、鳥飼地区にいたっては 40%を下回っている。とりわけ鳥飼北地区と鳥飼西地区については 30%を下回っているという状況の中で、本当に将来地域のコミュニティが活性化されているという絵を描くのはものすごくハードルが高いということを毎回問いかけている。それに対して自治連合会も危機感を持っていて、まちづくり条例の制定を自治振興課にお願いしている。現在、条例制定に向けて市役所庁内で会議をさせていただいており、4 回程度会議をされたと聞いている。元々は自治連合会からの要望を受けての検討に至っているが、自治連合会のメンバーを議論に入れてほしいとは言わないが、進捗状況を聞こうにもまだその段階ではないようで、返答を待っている状態である。4 回も会議をされているなら、一定の方向性が示されていると思うが、今後どのようにまちづくり条例の構築を進めていかれるか、また進捗状況についてお聞きしたい。 12 月 16 日に実施された南摂津駅前でのイベントは、この地域では初めての試みであった。今までなぜ実施に至らなかったのか、また、このイベントを実施するにあたって、どんな課題があったか、実施を通じてどんな展望が描けるのか、例えば、毎年実施していこうとしたときにどれだけスムーズにできるか、それには様々な規制への対応や、イベントを支えた市民グループの反応をせつかく将来のまちづくりをしていくのであれば、目の前で経験したことの課題解決と次への展望として示すべきである。この地域には自治会が存在しないが、新たな地域コミュニティの醸成の足掛かりになるかもしれない。まちづくり担当としての視点で紹介いただきたい。
	市	<ul style="list-style-type: none"> 自治連合会から令和 4 年 5 月に要望をいただき、自治会のみならず様々な地域団体、市民活動団体、企業等も含めて、各団体が連携して地域の活性化が図られる条例の制定に向けて取り組みを進めている。令和 5 年 6 月から市役所職員約 10 名で構成される地域コミュニティ活性化に向けた条例制定検討委員会を立ち上げ、会議を行っている。計 4 回の会議を受けて、来週 5 回目の会議を実施する。現在、他市の条例を参考にしながら、本市にはどういった条例が合うのかということ等について、職員の中で議論を行い、条例の素案、たたき台の作成を進めている。年度内にあと数回会議を重ね、年度末には素案を示したいと考えている。作成できた素案をもって令和 6 年度、自治会をはじめとする各地域団体へ提出し、いろんなご意見をいただきたいと考えている。そ

	<p>のご意見をもとに修正が必要な部分は修正を行い、令和 6 年度下半期にパブリックコメントを実施し、広く市民の意見を反映したうえで、ブラッシュアップしていきたいと考えている。令和 6 年度後半になるが、議会に上程し制定していきたいと考えている。</p>
市	<ul style="list-style-type: none"> 12 月 16 日に南摂津駅前広場で開催された、むすんでひらく文化祭については、一般社団法人中小企業ものづくり共創協会が主催となり、本市が後援しており、鳥飼地域がより良いまちとなるよう、イベントを開催されたものである。今回、この地域で、また南摂津駅前ロータリーの歩道部分を活用した初めての試みであったが、本市が後援することで可能となった。当日は午後からの雨にもかかわらず約 1,500 人の来場者が見られ、初めて実施したイベントとしては、成功したのではないかと主催者の方からは聞いている。一方で、動線や安全管理等の課題も見られたほか、歩道部分だけでなくロータリーの中をもっと利用できたらといった声もあり、そのためにはさらに協議が必要で、それらは来年度に向けた課題として捉え、様々な改善が必要であると主催者は考えておられる。
住民	<ul style="list-style-type: none"> 地元の方の反応はどうだったか。賛成反対両意見はあると思うが、こういうイベントをしたかったが、どうすればいいか分からなかったという方がいれば、それをきっかけに将来のまちづくりの展望が見えてくると思うが、そのあたりはどう考えるか。
市	<ul style="list-style-type: none"> 主催者側で小学校・中学校・保育園等に案内をした結果、子どもたちの参加や、比較的若い世代に多数参加してもらっていた。当日は市も鳥飼まちづくりグラウンドデザインの周知活動をさせていただいた。市としても、まちづくりに興味がある方、こういったイベントに参加したいと思われる方と、繋がりが持てたことが非常に良かったと感じている。今後もこういった方々と繋がりを大切にしていき、イベントの実施やまちづくりに繋げていきたいと考えている。駅前の地元の方の反応については、ドラッグストア等の周辺商業施設にビラの配布を行った際に、協力的な意見をもらえたと聞いている。
住民	<ul style="list-style-type: none"> 大阪モノレールは鳥飼唯一の鉄軌道駅で、南摂津駅前は賑わいを一番作りやすいところだと思っている。摂津市にある鉄軌道は単なる移動手段としての駅だけであって、茨木市のような人が集まるまちづくりになっていない。根本的な見直しも含めて、せっかくの資産である南摂津駅を何とかできないかというひとつのきっかけになると思う。そのためには地元の声や意識の醸成がないといけないし、市がまちづくりの観点でもう少し整理するべきである。そういった視点をもって取り組みを進めてもらいたい。
市	<ul style="list-style-type: none"> 今回のイベントの来場者からの声の中に、南摂津駅前をどうしたいかという質問に対して、南摂津駅前はこのままで良いという意見があったのも事実である。茨木市のような駅前商店街があり、常に賑わっている姿が地元の方に望まれているのか、あるいはある程度静かな環境の今の形をベースに、今回のイベントのような賑わいを都度創出する地域にするべきか、そのあたり今後地域の方々の声を聞きながら一緒に作り上げていくべきところだと考えてい

		<p>る。今回他市事例を紹介した中で、竹原市のケースは大きくまちを変えたというより、ソフト面での工夫からスタートしてまちづくりに繋がっているため、本市も地域の方々と一緒に少しずつ作り上げていきたい。</p>
	住民	<ul style="list-style-type: none"> ・将来予想では、ウィンドウショッピングをして常に人が賑わっていると書いているではないか。
	市	<ul style="list-style-type: none"> ・ランドデザイン策定委員会の中で出た意見をすべて盛り込んだらこういった形になるのではないかと考えているもので、それだけで良いのか、他に足りないものがないか、そういったところを確認するために今回 1 回目の説明会を実施している。説明会の中で、様々な意見をいただいたうえで、必要に応じて将来予想を修正していき、ランドデザインの実現を目指して取り組みを進めていく。
3	住民	<ul style="list-style-type: none"> ・一津屋に住んでいるが、南摂津駅前周辺のスーパーも利用している。90 歳になる両親がいるが、先ほどの南摂津駅前のイベントはターゲットが子どもになっていたことから参加を見送った。親は介護が必要で車いす生活を送っているが、そういった住民も参加できるイベントも検討してもらいたい。
	市	<ul style="list-style-type: none"> ・このイベントは市が主催したものではなく、一般社団法人中小企業ものづくり共創協会が主催している。市も後援という形で協力している。ターゲット層としては、子どもや子育て世代を中心にしていたが、今後お年寄りの方々も参加しやすいイベントの検討も必要だと考えている。そういった意見があったことは主催団体にも伝えていく。 ・先ほどあった用途地域の変更についての質問に関して、用途地域を変更するためには都市計画を変更する手続きが必要となる。地域の合意形成が必要となってくるので、すぐにできるものではない。ランドデザイン実現に向けて地域の方々の意見を踏まえ、最終的な将来像の方向性が固まり、合意形成が取れていけば用途地域を変更することも手段の一つとして取れると考えている。
4	住民 (オンライン)	<ul style="list-style-type: none"> ・正雀、別府方面から南摂津駅前に行くためのアクセスがない。セッピー号や、市バスも通っておらずアクセスが不便。駅前開発をするのであれば、多方面からアクセス出来る路線を作ってもらいたい。セッピー号も市役所止まりではなく、千里丘まで運行してもらいたい。 ・新幹線公園は有名だが、子連れで行く人がほとんどなのに、駐車場が無く、決して近くない駐車場から歩いて幼い子どもを連れて行くには、限られた人たちしか行けない。 ・新幹線公園は絶対駐車場が思う。小さいお子さんを連れてあの距離歩くのはたいへんだった。桜の時期など絶対イベントをすれば集客出来るのに、もったいないと思う。 ・説明会開催の時間帯に関して、子育て世帯はいちばん忙しい時間帯で、参加したくてもできない人が沢山いる。市が必要としている意見は、子育て世帯が重要かと思うので、開催の時間帯を考慮していただきたい。

市	<ul style="list-style-type: none"> ・正雀や別府など市域西部を走る市内循環バスは近鉄バスが国から認可を受けた路線バスとして運行しているが、モノレール南摂津駅は路線に含まれていないのが実状である。市役所から主に鳥飼地域や南摂津駅のルートを実行する市内公共施設巡回バス（セッピー号）も JR 千里丘駅との交通結節はない。両バス間のマッチング（接続）をさせるイメージでの貴重なご意見として承らせていただく。また今後、市の地域公共交通計画の策定に向け、今年度内にバス事業者や地域の方も参画いただく協議会組織を立ち上げ、その場でも様々なご意見をいただくことで検討を進めていきたいと考えている。ご意見をいただいたルートについても地域の合意形成が図ることができれば、バス事業者とも協議を進めていくことになろうかと考えられる。
市	<ul style="list-style-type: none"> ・新幹線公園は本市の中でもすごく人気があり、桜が咲いた時期には来場者が一気に増えるため、市としても車両公開を毎週日曜日に回数を増やすなどして、多くの方にもっと来ていただこうという対策を取っている。コロナ禍にあっても、府内外から多くの方が来場されていた。そのなかで、出てくる問題としては、駐車場が近くにないこと、またどうアクセスしたらいいのか、車をどこに止めたらいいのか、という問い合わせが多数あるのが現状である。新幹線公園自体は昭和 49 年に整備されたが、これまで駐車場の議論はされてきている。新幹線公園の隣にある鳥飼基地敷地の中で駐車場をお借りできないか問い合わせたが、セキュリティ上の問題から許可が出なかった。また他に、近畿自動車道の高架下を管理する NEXCO にも同様の問い合わせをしたが、高架下は資材置き場や工事点検用スペースということもあり、一般貸し出しは認められなかった。結果、南摂津駅の近くにある摂津市営の駐車場まで行くか、市役所の駐車場いずれかになり現状に至っている。当然、新幹線公園内にも駐車スペースを検討したが、形状が縦長で車両転回スペースが確保できず、歩行者との安全対策上の問題等からなかなか難しい。現状は、曜日に関わらず開放されていること、無料であることから、市役所駐車場を利用いただいている。他に良い方策がないか今後も引き続き検討していきたいと考えている。
市	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て世代の方が参加しやすい時間帯で説明会を開催できないかという点について、鳥飼まちづくりランドデザインは、子や孫の世代に向けての将来予想を見据えた長期的な視点が必要であることから、若い世代の方の意見を聞くことは非常に重要なことだと考えている。昨年度から今年度にかけて説明会を実施しているが、様々な世代の方の意見を聞いていくため今日のようなオンラインでの試みも行っている。オンラインでもやはり家事をされている時間帯は、参加が難しいというご意見だと思うので、様々な世代の方のご意見を聞いていくために、今後は開催時間の検討であったり、また開催時間のライブだけではなく、後からでも見ていただけるよう様々な手法を検討していきたいと思っている。
住民	<ul style="list-style-type: none"> ・桜の時期は茨木だと桜通りがあるのに、摂津は車ですぐに通り過ぎてしまうし、新幹線公園までは車椅子ではなかなか直接行けない。 ・摂津市ではなく、国土交通省の管轄になるかもしれないが、淀川河川敷に桜を

		<p>整備したら観光地として人を呼び込めるのではないかと考えているので、検討してもらいたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 交通に関しては、2025年大阪関西万博ではドローンの活用が検討されているが、ピンポイントでドローンタクシーを飛ばすことができればモノレールや地下鉄等の交通機関へのアクセスが可能になり、自動車やバスの渋滞解消につながるので、交通の利便性があがる。そういったことも検討してもらいたい。
5	住民 (オンライン)	<ul style="list-style-type: none"> 鳥飼の村は高齢者がどんどん増えている。どんどん過疎化が進む中で、鳥飼はこのままで良いとはとても思えない。このままでいいというのは一体誰の意見か。 子育て世代の参加しやすい時間帯は平日であれば20時以降、土日であれば午後であれば参加しやすい。 新幹線公園の駐車場が作れないのであれば、市役所に車を止めて、そこからシャトルバスを走らせる等の対応だけでも行きやすくなると思う。 今日の説明会を後日見返したいので、アーカイブ配信をお願いしたい。
	市	<ul style="list-style-type: none"> 南摂津駅前はこのままで良いという意見について、どなたかは特定できないが、先日開催されたイベントに来られた方とお話をする中で、そういった声があった。今の鳥飼の雰囲気が良いといったニュアンスであったことを報告させてもらう。 アーカイブ配信をして欲しいという点については、今回録画はしていないためアーカイブ配信はできないが、資料をまとめた動画版を、後日ホームページに掲載する予定であるため確認をお願いしたい。本日出た質疑応答についても、議事録を公開しているので併せて確認してもらいたい。
	市	<ul style="list-style-type: none"> シャトルバスに関するご意見をいただいたが、実現できるかはわからないが、貴重なご意見として今後駐車場をどうしていくかについての検討の一つとして考えていきたい。
6	住民	<ul style="list-style-type: none"> P.13で高台まちづくりが推奨されることになるが、高台になると消防車の需要も変わってくる。5m嵩上げされて家が建っていたら7m以上届く放水車しか対応できなくなるがそこは大丈夫か。
	市	<ul style="list-style-type: none"> 消防職員が本日出席していないので、担当外の回答であり個人的な見解となることを了承願いたい。5mとなると今の2階建てぐらいの高さになる。その上に2階建ての家が建ったとすると、建物の高さとしては約10mになる。通常のマンションの4階部分相当となるが、現在マンションの4階部への放水ができないかという点を決してそうではないと考えている。P.13の説明にあるように、5m嵩上げされた住居がポツポツと存在するだけでは、対策としては有効だが、まち全体の高台化とは言えない。最近盛土の危険性についても問題になっていることから、1軒ずつ嵩上げするのではなく、理想は一定の範囲を高台化することだが、一朝一夕にできるものではない。今後公共施設の建替え等があった際に高台化を検討するといったところから進めたいと考えている。

	住民	<ul style="list-style-type: none"> ・先日の市議会定例会で、はしご車の広域化に伴う更新費用に関する議論がされていた。高台を整備する前に、はしご車を配備する方が絶対必要だと思う。行政が高台をいくら推奨されても、はしご車がなくなったということになれば、誰も高層階に住もうと思わないのではないか。上層階に行くほど火災のリスクは高くなるので、そうなれば誰も高いところに住まず低地に住む人が増えると思う。 ・はしご車更新費用の 2 億円を捻出するのが難しいと言っている自治体が、何十億円も費用がかかるまちづくりのことを言われてもあまりピンとこない。本来はこんなことがしたい、あんなことをしたいと言って膨らませていくのが本当のまちづくりに向けた投資になるはずが、財政的な問題から結局、実現したい理想の中身を削って減算方式になると今日参加している市民の皆さんも困られると思う。
	市	<ul style="list-style-type: none"> ・何かをしようとするのが費用がかかるのは当然のことであり、市の財源も際限なくあるものでもない。住民からの意見で様々なハード整備を希望されることもあるが、結局行政がやるとなれば原資は税金となる。そういったことも踏まえて、何に費用をかけていくかについては、優先順位を付けて必要性の議論をしていく必要がある。
	住民	<ul style="list-style-type: none"> ・消防車に関してだが、地域の消防団車両を自治会で所有しているが、買い替えにあたって、本来なら 1,000 万円単位の費用が必要となるが、中古により 100 万円単位で購入することができた。そういった工夫というか取り組みもしているので紹介する。
	市	<ul style="list-style-type: none"> ・はしご車の件について、補足する。廃止ということではなく、効率的な運用の仕方について議論がされたと認識している。お金の使い方について、選択と集中ということがよく言われるが、限りある財源の中で、どの部分に効果的にお金をかけるかが重要である。そのためには、見直しを含めた効率的な運用についても考えていく必要があると考えている。
7	住民 (オンライン)	<ul style="list-style-type: none"> ・トックトックで市役所の駐車場から新幹線公園まで送ってくれると子どもたちも喜ぶのでは。名物になれば良い。 ・鳥飼にわずかにある商店街がどんどん廃れていく一方である。商店街が活性化することで街も人も活性化するので、活性化するよう何か対策をうっていただきたい。 ・セッピー商品券だけでは足りない。お祭りのようなものがあれば、活性化すると思う。
	市	<ul style="list-style-type: none"> ・商店街活性化については、地元商店会の主体的な取り組みがまず第一だと考えている。産業振興課としては、商店会の取り組みを後押ししていくスタンスである。具体的には、100 円商店街であるとか、まちゼミを実施されているので、市としても応援体制を取っている。また、新たな取り組みに関する提案があれば一緒に盛り上げていけるよう検討してまいりたい。
8	住民	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥飼まちづくりグランドデザインは子や孫の世代の 50 年～100 年先を見据えたまちづくりを考えることになるが、我々市民は一体何をすればいいかがわ

		<p>からない。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 予算規模の話があったが、まちづくりを考えるうえで逃げられないのが、少子高齢化の問題で学校統廃合は現実起っている問題である。統廃合後の跡地をどうするかといった問題、2057年の児童数の推移を見ても鳥飼地区は1中学校区で1小学校になるかもしれない。まちづくり如何に関わらず人口推計から考えると選択肢は統廃合しかない。人口が減れば税収が減るが、学校が減れば維持管理費が減り経費削減になる。税金を有効に使うとすると統廃合はしていかなければならない。鳥飼地域は2中学校4小学校があるので、統廃合を考えると、それぞれの跡地をどう活用するかが今後重要なポイントになってくる。どこかに売却するといったことも選択肢として、売却益をもって事業を行うなど、新たな税金を投入しなくとも鳥飼地域の中で収支の均衡を図る考え方こそが、まちづくりの根本になるのではないか。そういった問題提起を行う場として説明会を活用してもらいたいと要望したい。
9	住民	<ul style="list-style-type: none"> • 摂津市の地形はハートマークに似ている。ハートというのは世界的にカップルや男女が集まる場所である。観光等にも活用し人を呼び込める工夫をしてもらいたい。ドローンの活用や、今行っているイルミネーションイベント等も活用して、大阪の魅力としてインバウンドの外国人を呼び込むための取り組みも検討してもらいたい。

以 上